

海老名市立柏ヶ谷中学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第2回)

1 日時 令和4年11月15日(火) 13:30

2 場所 柏ヶ谷中学校第一会議室

3 出席委員 澁谷清美委員長、竹本弥生委員、上田貴康委員、二見吉男委員、
千葉一人委員、工藤真委員、中村賀子委員、霜島恵委員、金佳孝委員、
大矢貴史委員

4 会議の内容

(1) 開会の言葉

(2) 学校長挨拶

(3) 教職員より

本校の支援教育について

- ・個別学習について・・・補助指導員と担任が連携を図りながら、丁寧に指導している。
- ・支援教育について・・・中学は教科担任制なので、複数の目でチームとして1人の生徒を見ていく。支援係会(毎週1回)担当者が集まり支援が必要な生徒について協議している。教室で過ごすことができない生徒は、トラスト教室(1日4時間)に通うことができ、心の相談員がよき相談相手となっている。

(4) 授業参観(3年生の様子)

(5) 議事

○学校の状況について

- ・合唱祭は3年ぶりに文化会館での実施ができた。
- ・合唱祭、体育祭の二大行事に熱心に取り組み、大きく成長している。
- ・全国学力状況調査の結果について、校長より説明した。

○部活動の様子について

- ・どの部活も顧問・生徒ともに熱心に活動している。
- ・県大会や関東大会に出場する部活もあった。

○PTAの活動について(工藤真委員・中村賀子委員より)

- ・学区の小学校3校で子育て交流会を3年ぶりに実施できた。
- ・新1年生を対象に、制服リサイクルバザーを実施し盛況であった。

○各委員より

千葉委員・・・不登校の原因についての調査は行われるのか。

大矢委員・・・不登校の人数は、国の調査が毎年行われている。不登校の原因は様々であり、個々のケースに応じて対応している。

二見委員・・・不登校の原因は様々である。子どもが親に対して本音を言えないケースもあり難しい。

霜島委員・・・学校として何ができるかを考え、できる支援を教師と保護者が連携して行っていかなくてはいけない。

竹本委員・・・不登校の原因として、集団生活の不慣れやコミュニケーション能力の低下などが挙げられる。高校にはトラスト教室のようなシステムがない。学校へ来て誰かと繋がることはとても大切である。生徒たちへ「どうしたの」という言葉かけを大切にしている。

中村委員・・・学校へ行けなくなった生徒が、保護者や先生方の助けを得て、学校へ再び通えるようになったケースもある。

二見委員・・・コロナ禍により自治会の行事が少なくなっているが、大塚ふるさと祭りは盛況であった。やはり地域の行事は大切である。今後の餅つきやどんど焼きも、大切な地域のイベントとして実施していきたい。

上田委員・・・昔に比べて、不登校への社会のハードルが低い。学校へ行かなくても情報が手軽に得られる時代である。学校へ戻すことも昔に比べ難しい。

一人一台端末の活用が増えている。ぜひ効果的な活用を研究し、実践してほしい。

澁谷委員長・・・子どもたちの元気な姿が見られるようになってきて、とても嬉しい。子どもたちも落ち着いて学校生活を送っている。

○その他

- ・海老名市総合教育会議について
- ・海老名市コミュニティ・スクール連絡協議会について

(6) 閉会の言葉